

調査研究報告書の活用に関するアンケート調査結果報告

当調査会は、毎年度、各種の調査研究報告書を作成し、多摩・島しょ地域市町村等に配布するとともに、ホームページ上 (<http://www.tama-100.or.jp/>) でも広く公開しています。

この報告書が自治体の現場でどのように活用されているのかについて把握し、今後の調査研究に役立てるため、5月に多摩・島しょ地域の39市町村を対象としたアンケート調査を実施しました。

○ 9割近い市町村で事業の参考とされています

調査研究結果の活用状況を見ると、「その年の調査研究テーマによって、個別の行政課題と合致する場合には参考にしている」と回答した市町村は計34団体 (87.2%) あり、多くの市町村が調査研究結果を事業の参考にしていきます (図1参照)。

○ 近年発行の報告書が活用されています

平成29年度1年間の報告書の活用事例を見ると、「基礎的な情報、データ等として参考にした」という回答は計15団体あり、活用事例全体の38.4%となっています。(図2参照)。

活用された報告書の例

- ・「基礎自治体によるオープンデータ化と利活用の可能性に関する調査研究(平成28年度発行)」: 報告書を基礎資料として活用した。
- ・「創業による地域活性化と自治体による支援に関する調査研究(平成27年度発行)」: 女性起業応援に関する事業の実施にあたって、参考とした。

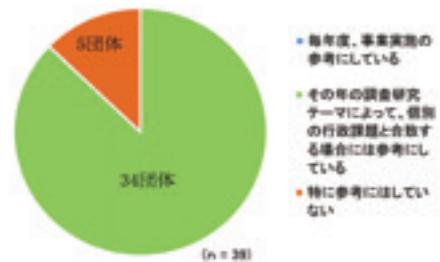
当調査会は、近い将来大きな課題となるようなテーマを選定し調査研究を行っておりますが、これに呼応するように1~5年前に発行された報告書が利用されていることが回答から伺えます。

一方で、「特に事業の参考にした事例はなかった」という回答も24団体あり、全体の61.5%を占めています。当調査会は、この結果をしっかりと踏まえ、市町村のニーズにあった調査研究に努めてまいります。

なお、本ニュース・レターでは、報告書の内容をよりご理解のうえご活用いただけるよう、7月号から報告書の概要紹介や有識者による解説記事をコンパクトに掲載しています。

当調査会が、報告書を市町村の要望に基づき、秋頃まで実施している出張フォーラムでも参考になったとのご意見をいただいております。是非、積極的にお声掛けくださいますようお願いいたします。

(図1) 調査研究結果の活用(単数回答)



(図2) 平成29年度の活用事例(単数回答)



編集後記

ちょっと前になりますが、「町田プロレス」が旗揚げしたという新聞記事がありました。市の特産品であるシルクメロンの覆面の「シルクメロン侍」や、市の花サルビアのコスチュームの「サルビアレッド」などが、試合を通じて市の特徴や魅力を発信しているようです。

プロレスといえば、かつては街頭テレビから始まり、テレビのゴールデンタイムで放映され、平成に入ってからでも一定のブームが続いていました。2000年代に入ってから格闘技人気に押されてブームも下火になっていましたが、最近ではテレビにプロレスラーが出演する機会が増え、会場には女性の観客も多くなり、ブームが再燃しています。ただ単に強さを見せるだけでなく、様々なキャラクターを持ったレスラーが、エンターテインメントを取り入れて、試合を展開していることが人気再燃の一因であり、それが「町田プロレス」のように、地域活性化とも上手に融合している要因でもあると思います。

当調査会で現在研究しているAI、結婚支援、多文化共生などもそうですが、自治体が今までの既存概念にとらわれず柔軟に物事を考えていくことも必要だと感じました。

(H.K)

発行 公益財団法人 東京市町村自治調査会
〒183-0052 東京都府中市新町2-77-1 東京自治会館 4階
TEL: 042-382-0068
URL: <http://www.tama-100.or.jp/>
責任者 岸上 隆

本誌のバックナンバー等を
ご覧いただけます

